

閉会の挨拶

名古屋大学農学国際教育協力研究センター長
山内 章

(山内) それでは、閉会に当たりまして一言ごあいさつ申し上げます。昨日から2日間、非常に熱心なご討議をありがとうございました。私もいろいろ会議に出ますが、このような熱い会議に出たのも久しぶりだと思います。浅沼教授からもありましたが、遠路はるばるお出掛けくださった方々、それからフロアからの議論に参加してくださった方、それからアンケート調査にも、われわれの呼び掛けにも応えてくださりまして、回答をお寄せくださった先生方、どうもありがとうございました。

今、ありましたように農国センターは、この熱い議論の中で宿題をたくさんいただきました。これらをこれから全力を挙げてやっていきたいと思いますが、たくさん宿題・課題の中で、私が一番重要だと感じたのはやはり人材養成です。とくに日本人の、こちら側のエンパワーメントが一つはキーになるのではないかという感じがします。2日間もこの議論に参加して下さるような、国際協力にこんなに力を入れてくださる先生方は、先生方の大学はよく分かりませんが、少なくとも名大の場合はマイノリティです。これが大学の中で広がっていく、広げていく、エンパワーメントしていく、そしてその活動や成果をしっかりと評価をしていただくことについて、現状では非常に困難な問題があると思います。そこにネットワークがあって、みんなが力を合わせて、その問題に正面から取り組んでいくことによって解決の糸口が見い出せると思いますし、また大学が内部に抱えている問題にどう立ち向かっていくか、が今後の進展の鍵になると思います。

もっと具体的に研究の場面で言えば、エンドユーザーオリエンテッドな立場から、自分の研究の出口はどこにあるのかということ、あらためて考えるために、このネットワークが機能して、大学の首脳部に働き掛けるような機能があると、参加して下さる方の一番大きなインセンティブになるのではないかと考えています。

農学というのは、先ほどから出ていますが、他分野から見ると、たくさんある分野の中の一分野と見えるかもしれませんが、実は農学そのものは非常に学際的で、社会科学も含んだ自然科学であり、それをあらためて認識することが非常に大切であるということ、今回の議論は明らかにしてくれたのではないかと思います。

農国センターとしましては、今後、研究者ではなく、専門家の事務局員を配置して、事務局を立ち上げていくつもりです。理念と具体的な施策を今後詰めていくつもりですので、皆さま方の積極的な参加、とくにこのネットワークを積極的に使っていくという参加の仕方を、ぜひお願いできればと思います。

もう一度申し上げますが、2日間、長い、熱い議論をどうもありがとうございました。これで閉会といたします。